



2017.10.28 News 満載の自然食品を発信しつづける菊池市を見学

集合：10月28日（土）12:00 熊本空港

解散：10月29日（日）17:00 熊本空港

ジャーナリスト磯山友幸氏が主催する磯山勉強会で、震災後の熊本県菊池市を激励、見学する企画があり、未来を創る財団から地域おこしの視察として参加した。



菊池市江頭市長直々にお出迎えいただき



市長の陣頭ご案内で、菊池市の物産と見どころを、2日にわたり余すところなく視察見学した（菊池神社で記念撮影）。元寇襲来をさかのぼること204年前の1,070年、太宰府の高官として藤原則隆が赴任がはじまりとされる。以来、太宰府を中心とする九州北部の豪族の地として名高い。菊池溪谷をはじめとするすばらしい自然景観に恵まれている。10年前からはその自然を生かした自然農業にとりくみ、自然食品の供給基地として、全

国的にも次第にその名が知られ始めている。大都市の人間が感じたことを伝えるのも我われの大切な仕事。到着の夜は、生産者、販売者、その他町の人びとと、走るブタや金賞にかがやく栽培椎茸など自然食品を囲み、大会場での大交流会で盛りあがった。





市内の見学では、菊池市ご自慢を順次見学。

左は有名な菊池の「走るブタ」通常、飼育されるブタは、肉が固くなるとして運動させない。ここでは放し飼いで旨みのあるブタに。実際、ブタが猛烈なスピードで駆け回っている。

2日目には、甘さ判定機つきメロンの生産現場や、菊池まるごと市場も見学した。

椎茸の収穫期は年2回ある。

訪れたときは、1カ月早く、これから出そろう前。

それでも現地で金賞の味わいを賞味。醤油が旨味を引き出す。風通しと適度な湿度が上質の椎茸を育てる。菊池盆地の奥まった溪谷の上に広がるこの森林が栽培によいらしい。

震災の影響: 地域によっては大きなダメージを受けたが、復旧も進んで市内は活気がある。景勝地、菊池溪谷の復旧は遅れている。

来春には、観光客も溪谷に立ち入ることができることとなる模様だ。